

## 世界遺産登録を目指して日韓の自治体が交流 in 奈良県橿原市

交流支援部交流親善課

### 1 「自治体発」としての開催

「海外自治体幹部交流協力セミナー（以下「セミナー」という）」は、CLAIR にある7つの海外（ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、シドニー、北京）事務所管内の国・地域の自治体幹部職員等を日本に招へいし、地方自治に関する「テーマ」を設け、それについての意見交換等を通じての関係者のネットワーク構築の推進を目的に毎年開催されています。

2011 年度のソウル事務所管内のセミナーについては、従来のセミナーとは異なり、もっと踏み込んだ深いテーマに基づいて議論することができるのではないかと「自治体発」として、地方自治体からの提案に基づくテーマで、そのテーマと関係の深い自治体参加者を集め、初めて実施することになりました。

### 2 受入自治体とセミナーテーマについて

2011 年度の受入自治体は「奈良県<sup>かしはら</sup>橿原市」でした。橿原市は歴史的な文化遺産を活かしたまちづくりを進めるとともに、奈良県・桜井市・明日香村と連携して「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録に向けた取組みを進めており、2007 年1月30日に世界遺産暫定登録リストに登載されています。

そのような経緯もふまえ、「奈良県橿原市の文化遺産を活かした観光誘致促進」をテーマとして、世界遺産の話にも触れつつ、このテーマに関心を持つ韓国自治体の方々と広く意見交換をしていくことに決まりました。

### 3 奈良県橿原市と韓国参加者との関係性について

今回、韓国側参加者は、忠清南道（＝「道」は日本で言う「都道府県」に相当する）、忠清南道公州市など、いずれも歴史遺産を活かして地域づくりをしている自治体からの参加者でした。

特に、公州市では、百済王国の古遺跡群である「公州・扶余歴史遺跡地区」が世界遺産暫定登録リストに登載されており、世界遺産登録を目指すという意味では、橿原市とは運命共同体のような自治体であり、橿原市が交流を進めたいと願う自治体でした。

このように、今回のセミナーは受入自治体と関係の深い韓国側の自治体参加者にも参加いただくことができました。

## 4 日程及び内容

2011 年 11 月 27 日（日）～2011 年 12 月 1 日（木）【5日間】

1 日目は、橿原市の重要伝統的建造物群保存地区として指定されている「今井町」を視察しました。次に、橿原考古学研究所附属博物館に行きました。発掘調査で出土した実物資料を通して参加者の方々は「日本の歴史」を学びました。



今井町視察



藤原宮跡視察



意見交換

2 日目は、橿原市の概要と世界遺産推進・観光の取組を学びました。また、同じく連携して世界遺産登録を目指している奈良県からも、総括としての立場から概要をご説明いただきました。

午後からは、「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の一部、藤原宮、石舞台古墳、飛鳥寺を実際に見て回りました。また、奈良県立万葉文化館も視察し、出土品のほとんどが韓国で見ると同じであることを通して、古代から韓国と日本が深いつながりを持っていることを再認識する時間となりました。

3 日目は、場所を移して、橿原市浄化センターにて、今までの橿原市や奈良県からの発表を踏まえて、韓国参加者側からのご意見をお伺いしました。

午後からは世界遺産である東大寺、法隆寺、平城京跡の視察に行きました。参加者の皆さんは視察場所としては一番印象に残ったようでした。

## 5 今回のセミナーを振り返って

今回このセミナーは初めて「自治体発」として開催することもあり、どのように進めるか、事前の協議が難しかった面もありました。そのような中でも最後の最後まで調整にご尽力くださった橿原市の皆さまに厚くお礼申し上げます。さらに、セミナー当日には朝早くから夜遅くまで車の運転も含めずっと同行していただき、心からの手厚いもてなしを行ってくださったことについて、重ねて感謝申し上げます。

このセミナーを通して参加者含め関係者 1 人 1 人が韓国と日本の深いつながりを知るきっかけとなり、また実際にも深いつながりを持つきっかけを作ることができたことが、セミナーの最大の成果ではないかと思っております。

このセミナーをきっかけとして、橿原市と公州市をはじめ、日本と韓国の交流や協力の関係がより一層強くなることを期待して、セミナーの報告とさせていただきます。カムサハムニダ！